

## 「神は再び接ぎ木することができる」

2018年10月16日

ローマの信徒への手紙 11章 17節～24節　しかし、ある枝が折り取られ、野生のオリーブであるあなたが、その代わりに接ぎ木され、根から豊かな養分を受けるようになったからといって、折り取られた枝に対して誇ってはなりません。誇ったところで、あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのです。すると、あなたは、「枝が折り取られたのは、わたしが接ぎ木されるためだった」と言うでしょう。そのとおりです。ユダヤ人は、不信仰のために折り取られましたが、あなたは信仰によって立っています。思い上がってはなりません。むしろ恐れなさい。神は、自然に生えた枝を容赦されなかったとすれば、恐らくあなたをも容赦されないでしょう。だから、神の慈しみと厳しさを考えなさい。倒れた者たちに対しては厳しさがあがり、神の慈しみにとどまるかぎり、あなたに対しては慈しみがあるのです。もしとどまらないなら、あなたも切り取られるでしょう。彼らも、不信仰にとどまらないならば、接ぎ木されるでしょう。神は、彼らを再び接ぎ木することがおできになるのです。もしあなたが、もともと野生であるオリーブの木から切り取られ、元の性質に反して、栽培されているオリーブの木に接ぎ木されたとすれば、まして、元からこのオリーブの木に付いていた枝は、どれほどたやすく元の木に接ぎ木されることでしょうか。

パウロは、折り取られた枝のイスラエル人と、接ぎ木された枝の異邦人を譬えて、両者の関係を述べている。パウロの同胞イスラエル人への愛と期待が語られている。

神が育てられるイスラエル人の木からある枝が折り取られ、代わりに、異邦人である野生のオリーブの枝が接ぎ木され、枝は根から豊かな養分を受けるようになった。異邦人がキリストの福音を受け入れ、信仰は成長している。だからと言って、接ぎ木された異邦人は、折り取られたイスラエル人に対して誇ってはならない。誇ったところで、あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのである。聖なる根は、あくまで神である。すると、あなたは、イスラエル人の枝が折り取られたのは、わたしたち異邦人が接ぎ木されるためだったと言うでしょう。「そのとおりです。」ユダヤ人は、不信仰のために折り取られたが、異邦人のあなたは養分を受け、信仰によって立っている。しかし、思い上がってはならない。むしろ恐れなさい。神は、不信仰ならば、もともとの枝を容赦しないように、恐らくあなたをも容赦されないでしょう。だから、神の慈しみと厳しさを考えなさい。倒れた者たちに対しては厳しさがあがり、あなたが神の慈しみに留まる限り、慈しみがある。もし留まらないなら、あなたも切り取られてしまうでしょう。

イスラエル人が不信仰に留まらず、信仰に至るならば、接ぎ木されるでしょう。神は、彼らを再び接ぎ木することが容易におできになる。あなたが、もともと野生の木から切り取られ、元の性質に反して、栽培されているオリーブの聖なる木に接ぎ木されて成長している。まして、元から聖なるオリーブの木に付いていたイスラエルの枝は、どれほどたやすく元の木に接ぎ木されることでしょうか。

パウロはローマ書 9章 3節で「わたし自身、兄弟たち、つまり肉による同胞のためならば、キリストから離され、神から見捨てられた者となってもよいとさえ思っています」とさえ語っていた。同胞イスラエル人がキリストの福音を信じ、救われることが最大の願いであった。福音の解放を知ったパウロが「私のようななれ」との祈りである。